

酒々井町郷土研究会々報

第61号

平成3年7月1日発行
酒々井町郷土研究会
編集部

「佐倉藩年寄部屋日記」抄 (五)

相京 晴次

「佐倉藩年寄部屋日記」は寛延二年(一七四九)一月から三年八月までの一ヶ年半の、今から二百四十年前の記録ですが、現在とこの時代の違いがよく判る史料です。

水害

今回は風水害についての記録を拾ってみたいよう。

寛延二年八月十三日の日記

一、今日大風雨、未刻(午後二時)過、佐野新右衛門入来、風雨強、御座候ニ付、所々相廻見分致候処、御本丸、何ニ御別条御座無ク候(読み下し文に訂正以下同様)以下略

一、森村助左衛門達、鹿島橋水増、往來通り之橋ヲ大繩ニ而留置、酒樽等申付候、段々水高ク相成候趣之由、此通り御座候ハ、橋押流シ申ス可クモ斗リ難

ク田町坂下之家ニ軒海隣寺山崩レ押倒サレ往還へ倒難ク間取仕舞候様申付候(中略)

一、酉之刻過、森村助左衛門、佐野新右衛門、岡本勘平、田村恒右衛門入来、鹿島橋見分ニ罷出、舟渡も指留申候、急飛脚等

之儀滞無ク渡候様申合候、浪高二御座候、乗舟モ成リ難ク候ニ付、御城渡候通ハ相廻り申サズ候由。

と報告されております。「年寄部屋日記」なので、單々とした文章で報告されてはいますが、この大風雨は可成り大きな大暴風雨であつたようです。

現代ならば風速、雨量、被害等刻々と報道されたこと、でしょうが、当時としてはこの程度の報告と応急処置しか出来なかつたものとみえます。それにしても

鹿島橋を流されぬ様に大繩で縛つておいたなど現代では考えられないことです。

一、森村助左衛門達、鹿島橋水見分遣候、昨夕之通御座候、風雨止候ニ付、今朝より舟渡仕候、増水昨日ハ浪高ク見分成り難ク御座候処、今朝見分ハ八尺水高御座候(中略)

一、岡本勘平達、鹿島橋、水只今定抗九尺(ニ、セメートル)之水高由、卯中刻、辰ノ中刻、定水九尺五寸(ニ、八セメートル)水高候由

鹿島橋の増水も前記の通り定水より九尺五寸も増水して交通はずべて渡舟によつたようです。このことは印橋沼沿岸全部が増水し、暴風雨に曝されたことになり、被害は全地域に及び、十四日、十五日、十六日には佐倉藩内の各村から次々と山崩れ、家屋の倒壊、死者、怪我人、田畑の浸水被害が出されております。

一、田村恒右衛門達、昨日之風雨ニ當村忠右衛門と申者之山崩落、右之着之家潰れ、男子老人女子一入怪我仕り相果申候、此段御注進申上候以上

下根村名主組頭(氏名省略)

以上の届けを始めとして藩内七十余ヶ村から被害届が出されておりました。防災対策のなかつた当時の村々の弱さ

がよく判る日記であります。次に酒々井町の被害を抽出しておきます。

相木村、七尺八寸水高、田畑損申候
下岩橋村、山崩二十ヶ所、内九ヶ所田
方七ヶ所畑方、四ヶ所海道

上岩橋村、崩落十二ヶ所、上田、中田
下田、下畑、右之外崩落十二ヶ所、百姓
共居屋、數破御座候、

中川村、水損全田畑之外百姓家二十
五軒水上り申候

酒々井村、崩打田畑砂押二十六ヶ所
とあつて被害が広範にわたつていたことがわかります。

あくがとうございました。

六月九日(日)九時、梅雨のどよめかとは思えないほどの青空の下、わが町酒々井をわつと知りたいたい八名が中央公民館から史跡めぐりに出立いたしました。

相京さんの先導で島田家屋敷内にある野馬お払い場を皮切りに、整備された築山から印橋沼を眺め、日頃、拝観がなされる勝蔵院のお不動さま、妙楽寺の七面さま、とら小山の永徳板碑にも真近かに対面でき、また一ツ賢くなつたようによ。

昼食処に中川青年館を拝借したところ、地元の方々が茶とお漬物、煮ものなどを持参して下さり、一回それらの疲れが吹き飛びました。さらに妙楽寺で地元の方々が「今日さくらに集まるのを金報で知たから」とこられたお茶やお漬物を用意して下さい、午後からの疲れがとれました。四時、JR酒々井駅が解散、温かい気持ちに包まれて本家に帰りました。

このところ郷土研の行事に参加した人達が目に見えて多くなつてきているの、会員一人ひとりのこうしにお心にまわられてこそと思ひ新たに、ありがとうございます。

どうなる吾等人間の未来

杉坂 一

人間の起源は何時何処で発生したのか、その源流は学者先生方にもはつきりとした定説は無いようです。しかし、人間が哺乳動物の仲間である事は、体の構造からみて現代の馬や牛其の他諸々の獣類の祖先と同じような生活を太古にはしていたらうし、それが環境に都合よく適応して、それぞれに分化してきたのであろうと思えます。以上のことは、定説が無い以上勝手に想像するわけです。

地球の起源は四十六億年前の太古とされています。生命が発生したのは、生物が住める現在の地球の形態になつてからです。さらに億千の長い時間を経てようやく高等動物の人間へと進化し、社会と言う都合のよい生活方法を考案して、素晴らしい文化をもつ現代へと発展して来たのだと思えます。

しかし今の世界は、民族や宗教や思想の違いから争い事が絶えません。何時まで続くことであろうか。幾年前か前に読んだ物の本に「巨大の滅亡」なる説がありました。その説は「生物は大変化するにしがたが、種類が少なくなり、終いには消滅する。北海の鯨は種類が少なく大型で、その数は減りつゝある。陸地の象も大型で、インド象とアフリカ象の二種類しか無く、これも段々減つてきている。人間は肌の色の違

民族が多数あつても、人としての種類は一種であつて、頭脳が巨大化しておき、やがては滅亡する。次に地球を支配するのは昆虫だ。」と言つておられます。私はそんな説にはうなずけないし、そうだとしても昆虫の前には後がある。動物の滅亡は、人間の限らない欲が濫獲と環境破壊となり、その結果、彼等の食と住を奪いつゝあることからくるのだと思えます。それ以上に恐ろしいのは人間の頭脳の方で、戦争の度に規模も大型になつて、人間自ら滅亡を招く事になるかも知れません。光のことは過ぎておくれればわかりません。

私は青年時代には体力が弱く、この体では四十七歳迄しか生きられないと医者から宣告を受けましたが、四十七歳になり、六十歳になり、七十歳過ぎて現在に至つています。私が十二歳の時、父は肺結核を患ひ四十三歳で他界しました。しかし、その時代は人生五十年といわれた時代でしたので、まあまああの年廻りでした。

43 + X - 2 (12 + X) = 0 X = 19
父があと十九年長く生きてくれたならば、私は三十一歳、父は私の二倍の六十二歳。私が現在も生きて居るのは、父が早死して、その分、私に年をプレゼントしてくれたのだと考え、父四十二年の生涯の二倍の八十六歳迄生きたい

と思つて居ます。しかしそれは私自身の近未来の事。どうなることでしょう。



草刈体験してみませんか

四月二十八日、史跡文化財愛護活動で草刈りを行いました。今回の参加者数二十四名と今までになく低調だったのは残念でした。見学会など他の行事にはうれしい悲鳴を上げるほど多数の参加をいただいているだけに、このうした地味な行事にも皆様の目をむけていただけるようになってはじめて、郷土研究会が認められるのだと思えます。次回は七月二十一日(日曜日)に実施します。炎天下の作業となりますが、持ちなれぬ力カマを振るって汗を流したあとのジュースは何ともいえず美味しいものです。多数の御参加をお願いいたします。

なお現地集合ですが、場所が判らない方は、社会福祉協議会事務所前(旧園道51号沿い津田屋脇西入ル、中央保育園前)に作業実施時間十五分前までに集合して下さい。



「チョットお耳に」

今年度より、郷土研究会の行事に保険を掛けようになりました。僅かの保障ですが、行事に参加するために自宅を出た時から帰宅までの間に事故にあった場合、保険金が支払われます。何かありましたら会長(九六一四八六二)か白石(九六一七二七六九)までお知らせ下さい。

郷土研日誌 4月~6月

月日	内容	参加数	月日	内容	参加数
4/13	史談会(第3回) 酒々井町の年中行事と読心	19名	5/29	見学小委員会(第34期)	10名
4/15	一泊見学会		6/1	運営委員会(第34半期)	21名
4/16	高遠・善光寺方面	48名	6/4	名勝探訪 築地、佃島方面	43名
4/25	山菜を食べる会	67名	6/8	史談会(第5回) 酒々井町の年中行事と読心会	28名
4/28	史跡文化財愛護活動	24名	6/9	町内史跡めぐり(上岩橋-酒々井)	18名
5/2	名勝探訪(都籠に) 王子、早稲田方面	40名	6/22	郷土研会報校正	9名
5/11	史談会(第4回) 酒々井町の年中行事と読心会	27名	6/27	郷土研会報発送	15名
5/27	郷土研会報編集小委員会	10名			

「ご連絡をお待ちしています」
平成三年度も半年経過しました。本年度の会費未納の方は、誠にお手数とは存じますが、会長宅(九六一四八六二)まで御連絡下さいませ。よろしくお願ひ申し上げます。

「幸せ参りと花訪ねの旅」に参加して

丁子

気に入っていた天候も東京を抜ける頃から快晴となる。甲府盆地に入ると未だ枯枝のぶどう畑が目につく。桃の花はどうかしら？ 桃ですあそに眠気も覚め、ぶどう畑の先を見るとピンク色の花訪ねの旅の第一歩が桃である。近づくにつれ、一面ぶどう畑の真を流した様に満開なのだ、ところどころ白も混じっているのは、すももかしら？ 山合いの岩肌には赤紫のつじや黄色い山吹の花。バスの前方には雪のアルプス連峰が目に入る。ガイドさんの説明に耳を傾け乍ら幸せ一杯の初日である。本当はあの山の上に富士山が見えるそうだが残念ながら現れなかった。

このような上天気になるとは誰もが思ってもいなかったと思う。高速の桜はどうかかな？ 行く道々の桜は七、八分咲き位が大分の様だ。高速の桜は小ひかん桜といつて吉野桜より小さ目で真にピンク、全体的に吉野よりピンクが強いように思えた。大分古い樹が多く、囲われの絵島を慰めたかのよう。高遠城のあった桜山に上ると人ひとの波。空濠りにかかった橋から格越しに見る雪の中央アルプスが絵のよう美しく、誰もがカメラをかまえていたので私も試みたが人の波で思うようにいかなかった。

ところどころに桜のトンネル。家々の庭先にはやしなつじいとバスの中からのお花見を存分に楽しみなが、若葉には少しばかり早いカラ松の芽を越えようと、眼下に更埴市が一面広がる。少し散り初めたアンスの里の暮れかかった畑を

抜けると頭上にアンス、足下にチューリップの赤や黄色。ミニだがとても可愛い花々。あんずの里から宿泊地の上山田温泉へ向かう。車中より「あれは桜、ここは未だ五分咲きね」とか「ああんて古いアンスの樹だ」とかい合っているうちに上山田温泉のネオンが見えて来た。朝が早かったせいか一寸疲れた。

翌日八時出発。早朝のせい、一寸肌寒い様だったが善光寺様は未だ混んでいなかった。ゆづりお参りも出来、予定外の御胎内巡りも出来て家族の健康をお祈りする。昨日同様好天に恵まれ、小諸城跡の桜は八九分咲き位、ただ見事という外言葉が出ない。

石垣を撫でる枝垂桜に思わず手が出て仕舞う。酒々井の水仙に始まり山吹、やしおつじ、桃、吉野桜、小ひかん、枝垂桜、最後に埼玉の梨の花と花つきの楽しい旅であった。

都電に乗って

S・E生

五月二日、千ヶ崎電車に乗った名勝旧跡めぐりに集まった人四十名。町屋から乗った都電は一輛編成で我々が乗った超満員。一日乗車券を買って乗り降り自由というのもうれしい。

王子神社の境内にひっそり鎮まる閑神社は髪を毛の神様とか、こここそ私のお



願い処とそしくなつた髪のために心からなるお願いをする。王子稲荷は関東のお稲荷さんの総社とあって、神社裏の崖中腹のお狐さまのお住居は、ほんの小さな穴ながら、鳥居も建ってそんな小さなミウの狐とは格が違ふ。持ち上げられたいが、見かけよりも重

ながなが判らず、じっと目をこらしてようやく対面かなう。墓地には丸橋忠弥の墓が長曾我部一族の墓に囲まれてある。芝居で馴染みの忠弥が長曾我部の出とは知らなかったが、幕府転覆の計画人とあれば当時では極悪人として処されたものであろうに、墓はキチンとしたもので何となしホッとす。

彰義隊の首塚のある南蔵院、道灌中かりの山吹きの里の碑、甘泉園公園

〈会計報告〉

4月15日~16日 泊見学会 高遠・善光寺方面 (参加者48名 会費25,000円)	4月25日 山菜を食べる会
収入 1,200,000	(参加者 67名)
支出 1,190,598	(会費 500円)
支出内訳 バス代 267,800 宿泊料 638,420 有料道路 298,220 園料 13,650 入屋費 165,212 係返 3,696 返却金 15,000	収入 33,500
残金 9,402円を 郷土研に繰入れ	支出 33,687
	不足額 187円 郷土研より補足
	尚米10kgは農政課の 米消費拡大事業協力にて 頂きました。

ミクリと葛蒲の移植

昨年会報五八号で木本先生より報告のありました下岩橋のミクリと葛蒲を保存のために当局の了解を得て、墨総合公園内修景池へ移植いたしますのでご協力をお願いいたします。

移植実施は、七月二十一日(日)の史跡文化財愛護活動草刈り終了後に、引続き移植作業を致します。

採取場所は下岩橋大仏頂寺下です。ミクリ・葛蒲に関心をお持ちの方は是非ご参加ください。

なお、当日の草刈りについては二頁及び四頁の郷土研行事案内に記載してありますのでよろしくお願いたします。

で一服すればもう三時、面影橋より帰路に着く。

郷土研行事案内

平成3年7月~9月

	7 月	8 月	9 月
史談会	13日(土) 中央公民館、会議室 「酒々井町の年中行事」を読む会 午後1時30分	休	14日(土) 中央公民館 会議室 「酒々井町の年中行事」を読む会 午後1時30分
名勝探訪 野草の会	5日(金) 京成酒々井駅 8:26 出発 (名勝探訪) 深川方面 京成酒々井 門前仲町 - 深川不動 - 葛岡八幡 中巻 - 法乗院(深川えんま) - 紀伊国屋文左衛門墓 - 深川江戸資料館 - 靈巖寺(松平定信墓) - 清澄庭園 - 深川芭蕉庵跡 - 芭蕉記念館 - 森下 京成酒々井 (雨天中止)	休	10日(火) 京成酒々井駅 8:38 出発 (名勝探訪) 品川方面 京成酒々井 青物横丁駅 - 品川寺 - 海蔵寺 (品川投込寺) - 東海禅寺 - 官舎品川硝子製 造所跡 - 旧東海寺墓地(沢庵墓) - 品川神社 (板垣退助夫妻墓) - 新馬場駅 京成酒々井駅 (雨天中止)
郷土史講座 (酒々井町教育委員会主催)	8月18日(日) 午後1時30分 場所 酒々井町中央公民館 視聴覚室 演題 「本佐倉城跡発掘の概要」 講師 印旛郡市文化財センター 木内達彦 先生		
史跡文化財 愛護活動	7月21日(日) 午前8時現地集合 (1)上岩橋貝層 (2)カンカンムロ横穴群 ◎現地不案内の方は社協福祉協議会の前に7:45に集合 (3)伊藤松並木 各地の草刈 清掃 都合のよい場所に「カマ」等持参の上御協力をお願いします。(雨天中止) 代替日 7月28日(日) ※作業終了後、シロと葛薔の移植作業をします。減少しつつある植物保存のためご協力をお願いします。		
県内学 見学会	7月12日(金) A班 定員 35名 茂原・長南方面 16日(土) B班 酒々井中央公民館 午前8時30分 酒々井町中央公民館 8:30 - 茂原ひめはらの里 - 長福寿寺 - 称念寺 - 長柄ふるさと村(昼食) - 中央公民館ロビー(定員は次第で切) 薬王寺(布田の薬師) - 酒々井着(17:00) 各班 35名 ※ 素晴らしい庭を巡りながら美しい懐石弁当をいただきます。 4,700円 12日分は9日まで、16日分は13日まで に会田秀雄宅 まで 出 発 酒々井中央公民館 午前8時30分 申 込 受付 7月4日(木) 午前9時 場 所 中央公民館ロビー(定員は次第で切) 定 員 各班 35名 会 費 4,700円 キ ャ ン ド ル 12日分は9日まで、16日分は13日まで		

見学会案内

名勝探訪

県内見学会

◎ 深川方面 7/5(金)

大江戸八百八町の中で深川は、庶民の喜怒哀楽の表情が色濃く漂うところでした。大震災と戦災で大きな被害を受けましたが、その伝統はあちこちに残っています。

成田不動の出開帳が行なわれた深川不動、巨大な横綱碑のある富岡八幡、法界院のエンマ様はコンピュータで説法なされる。蒙南紀伊国屋の形崩れた墓と贅を尽した清澄庭園、けいこ相撲のかげ声の飛び相撲部屋を抜けて、万年橋あたりは芭蕉ゆかりの地。今回はそんな深川を歩いてみます。

◎ 品川方面 7/10(土)

京浜急行青物横丁駅より徒歩三分で品川寺です。江戸六地蔵の第一番のお地蔵さまに今日の道中の無事を祈って海蔵寺へ。無縁首塚には鈴ヶ森刑場で処刑された罪人、品川宿の遊女、天保の飢饉の餓死者が合葬されています。將軍家光が沢庵和尚のために建立した東海禅寺は広大な寺域を有する巨刹でしたが、今はひっそりとした一寺になっています。東海道線のカードをくぐると「日本ガラス工業発祥之地」と刻まれた石碑があり、線路脇の坂道を辿れば漬物石にちようどよさそうなたん麩和尚の墓、佐倉藩主堀田正盛寄進の石鳥居と水盤、板垣退助夫妻の墓のある品川神社におまいりして新馬場駅より帰ります。

◎ 茂原・長南・長柄方面

ひめはらの里(茂原市上永吉)

並び立つ杉の山に囲まれた小さな湖、ヒメハルゼミの群生地として知られるひめはらの里園内の大温室には熱帯・亜熱帯植物二〇〇種が生い茂り、フラインゴ、カムフラザルなどの鳥達が身近かに飛びかう別天地。四季折々の花々の展示即売もあります。

◎ 長福寿寺(天台宗・長南町)

三途河原極楽東門蓮華台上阿彌陀坊大平林山本実成院長福寿寺と日本一長い寺号をもつ、延暦一七年(七九八)、桓武天皇の勅願によって建てられ、関東における説林(学問所)として、西の比叡山、東の三途台と称された大本山でした。

◎ 称念寺(浄土宗・長南町)

本尊は口を開き白歯をみせているので歯吹如来と呼ばれている。堂内欄間には「波の伊八」として有名な武志伊八の波間三足の竜ノという巨大な竜が彫られています。

◎ 長柄ふるさと村(長柄町)

もとスイス大使館だった建物と手入れの行き届いた日本庭園、スイスのレマン湖を模したという湖が不思議に調和したお座敷で郷土研としては超豪華の懐石のお弁当をいただきます。日頃のつましさを忘れ、テロピリ豪遊の気分を浸ってください。

◎ 薬王寺(日蓮宗・東金市)

かつては「布田のお薬師さま」といわれて、酒々井からも多勢の人達が参詣し、目薬は靈驗あらたかとか。

あじき

梅雨もまんざらではないなあと、今年もきれいな花をつけた庭の紫陽花を染んでおきます。

先日、初めて役員会に参加したのですが、これが又大変なんです。場所を決め下調べから資料集め、そして日時を決め、紙面に発表となります。名勝探訪など、東京の交通量の多い街を沢山のひと歩き、事故も無く今までにないのは参加する会員の方々の協力があってのことです。これからも喜ばれる計画を立てて行きたいと思っております。